



国産杉材を多面的に生かした都市型集合住宅

都心に程近く大ぶりの集合住宅の建ち並ぶ環境において、スケールを抑えた3階建て戸建住宅ボリュームを4棟連ねた分棟長屋形式の集合住宅である。

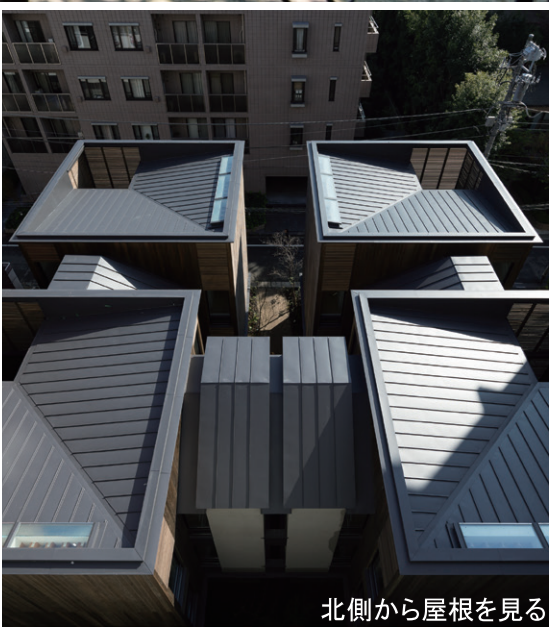
適度に距離を置いた分棟同士を結びつける緑豊かな共有部と、格子越しの美しい光が空間に広がりをもたらす専有庭とを設けることで、住まい手が戸建住宅と遜色ない暮らしができることを求めた。

準防火地域のため外壁材の選定が制限されるが、下地に金属板や木毛セメント板を施し耐火性能を満たしつつ、杉格子で住戸を包むことにより、日射負荷を低減、内外の温度差の軽減による躯体劣化も抑制し、都市に建ちながら外観の木質化を実現した。

また、汎用性を生かして各所に使用している杉は、多大な製材量となるため9千本超の杉格子用角材や壁・床・造作家具に用いる羽目板は材寸法の統一を図ることで加工の経済的合理性を考慮している。

これらの杉材は日本三大人工美林の天竜地区の地場産業である。林業、製材業の地域産業をフルに活用し、必要な木材の数量を把握させ、製材工場に原木の仕入れ→製材加工→出荷まで一貫して依頼することで、中間コストの低減や作業効率の向上、CO2の排出量の抑制を図った。日本の資源である森林を持続可能なものにするためには、トレーサビリティを明確にし、木を使って山を手入れしていく必要がある。地産地消、地産他消することにより、その地域の森林が循環する事も目的としている。

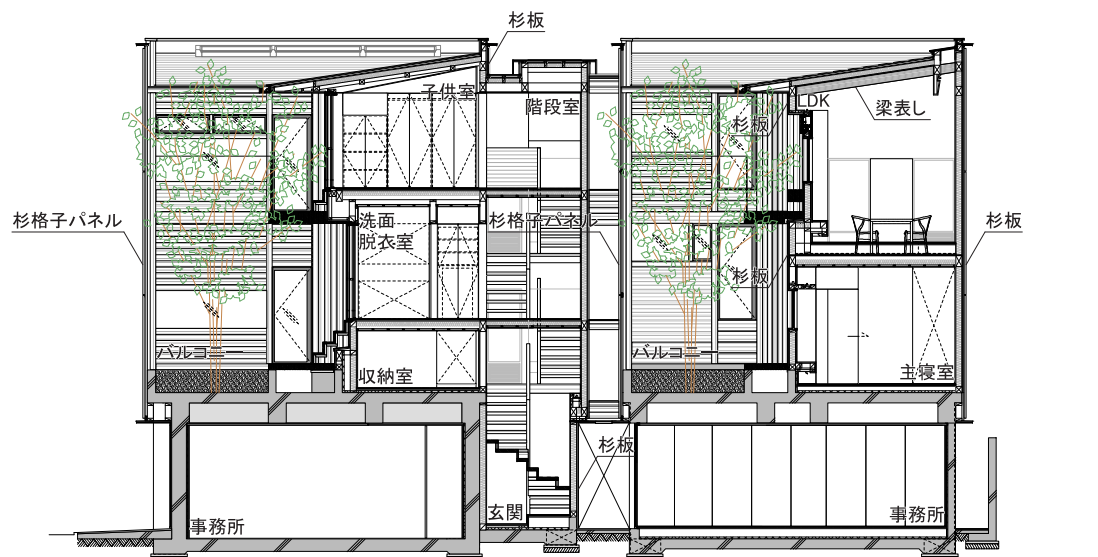
建築概要	
所在地：東京都渋谷区代々木	構造：木造、鉄筋コンクリート造
建築面積：208.25m ²	階数：地上3階
延床面積：481.06m ²	用途：長屋、事務所



北側から屋根を見る



南西側から専有庭を見る



断面図 S=1:150



南側道路から共有庭を見る



2階専有庭



南西側から見る



階段室



2階主寝室 共有庭を臨む



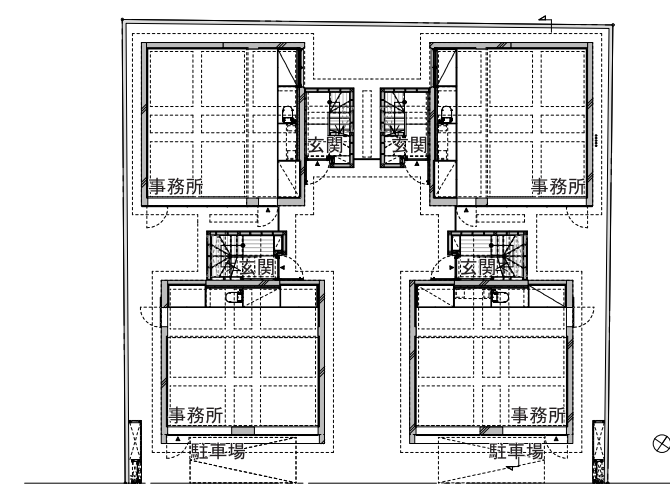
2階主寝室 専有庭を見る



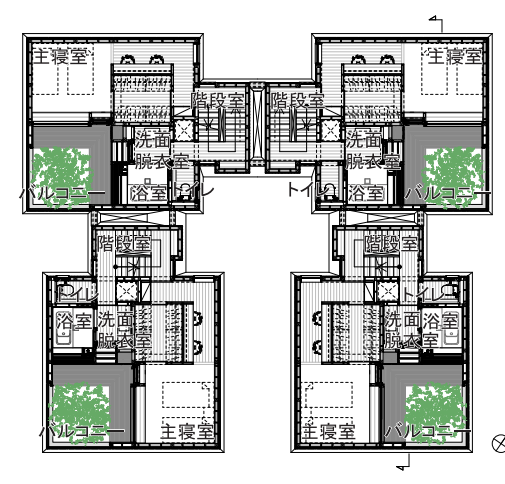
3階LDK 右手に専有庭、左奥に共有庭を臨む



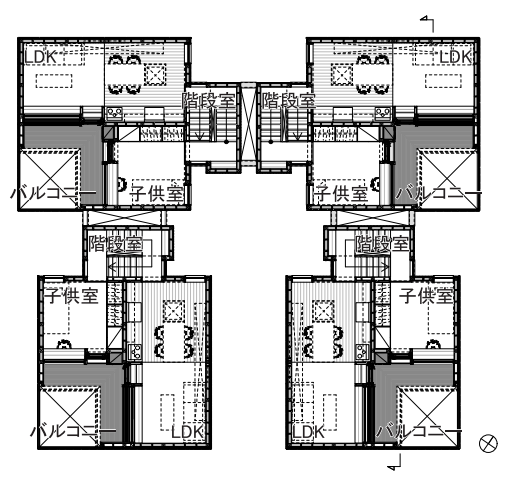
3階LDK



1階平面図 S=1:300



2階・M2階平面図 S=1:300



3階・M3階平面図 S=1:300